

31 街角インタビュー

場面：ドキュメンタリー番組

状況：空港にいる人の出会いや別れに密着するドキュメンタリー。ナレーションと空港にいる人のインタビュー

登場人物：

- A (女性、ナレーター)
- B (男性、空港職員 (山下))
- C (女性、留学生 (リン))
- D (男性、空港利用客 (佐伯))

A：空港は、毎日たくさんの人が行き交う場所だ。出発する人、帰ってくる人、送る人、迎える人。今日はこの空港にいる3人を見てみよう。

山下さんは、航空会社で働いている。毎日、飛行機の乗客の案内で忙しい。カウンターから出発ゲートへは、どうやって行けばいいか。バスはどこから乗ればいいか。日本語や外国語を使って、空港の中を案内している。

B：「日本に来た外国の方が安心した顔で『ありがとう』と言ってくれると、この仕事をしていてよかったと思います」

A：この日も、一人の若い女性に声をかけられた。

C：「す、すみません…」

A：少し緊張した声で話しかけてきたその女性は、日本語にまだあまり自信がないようだった。山下さんはいつものように笑顔で、ていねいにゆっくりと日本語で案内をした。

日本に着いたばかりの留学生のリンさんは、迎えに来るはずの友達と連絡が取れなくて困っていた。まだ日本語もよくわからないし、一人で心細かった。

C：「日本語で話しかけるのは、すごく緊張しました。でも、話しかけないとダメだと思って…がんばって話してみたら、航空会社の方が親切に、ゆっくり話してくれたので、安心しました。友達とも無事に会えました。」

A：そう、笑顔で言った。リンさんは、日本に来て初めて話した日本人のことを、忘れないだろう。

空港のロビーで、妻と小さな息子とお別れをしていたのは佐伯さんだ。会社の転勤で、妻と息子と離れて外国に引っ越すことになった。

D：「息子が『いってらっしゃい、またあしたね』って言ったんです。あしたは帰れないんだよ、と思ったら、出発前なのにもう寂しくなって涙が出そうになってしまいました。

でも、次に息子に会うとき、大きくなっていると、今から会うのが楽しみです」

A：そう言いながら、出発ゲートに向かって行った。

空港という場所は、出発と到着、期待と不安がまざる場所だ。毎日、空港にいる人の数だけ、特別なストーリーがある。